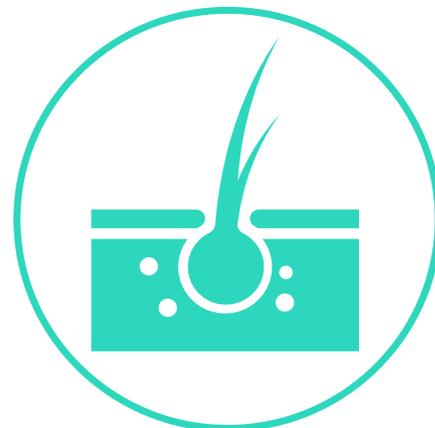




皮膚疾患

犬の亜鉛反応性皮膚炎



亜鉛は多くの酵素の補助因子として機能します。代謝経路で重要な役割を果たすため、皮膚内の細胞のように、分裂速度の速い細胞にとって不可欠なものです。

亜鉛は食餌から補給され、体内では十分な量を維持できません。食餌に含まれる亜鉛の量が少ないと、亜鉛反応性皮膚炎と呼ばれる皮膚疾患が起こる場合があります。

亜鉛反応性皮膚炎には、次の2種類の症候群があります。症候群1は遺伝性のもので、通常、アラスカンマラミュートやシベリアンハスキーなど北極圏の犬種の若齢犬に見られます。これに罹患した犬では、腸管からの亜鉛吸収が阻害されます。症候群2は、通常、亜鉛が十分に含まれていない食餌や、植物性フィチン酸塩やミネラル（特にカルシウム）など、亜鉛の吸収を阻害する成分を多く含む食餌を与えられ、非常に速く成長している大型犬または超大型犬の仔犬で報告されています（完全かつバランスのとれた食餌に加えて、カルシウム補給食品（サプリメント）を与えられ、非常に速く成長している大型犬または超大型犬の仔犬でも発症する場合があります）。

完全かつバランスのとれた食餌に切り替えたり、亜鉛を補給したりすることにより、通常、皮膚疾患の症状は解消されます。

キーメッセージ

- 亜鉛反応性皮膚症の臨床症状には、脱毛、紅斑、鱗屑、痂皮、苔癬化などがあり、多くの場合は左右対称に現れます。通常、病変は、目、鼻、口、耳の周囲に見られるほか、肘や足蹠など、圧覚点に現れる場合もあります。多くの場合は、被毛の質が悪くなり、乾燥しています。犬は痒みを感じ、細菌やイースト菌に二次感染することもあります。
- 適切な感染の治療に加えて、該当する場合は次の栄養管理を行います。
 - 症候群1の亜鉛反応性皮膚炎の犬には、亜鉛（硫酸亜鉛、亜鉛メチオニンなど）を経口で補給します。
 - 症候群2の亜鉛反応性皮膚炎の犬については、亜鉛を十分に含む食餌、または植物性フィチン酸塩、カルシウム、その他のミネラルを過剰に含まない食餌に変更する必要があります（または、カルシウムのサプリメントを中止する必要があります）。数週間亜鉛を補給すると、反応がさらに速くなる場合があります。

(次のページに続く)

キーマッセージ (続き)

- 通常、症状は 4～6 週間で改善します。しかし、犬が反応しない場合には次の対応が必要です。
 - 亜鉛の投与量や形態を変更する必要があります。
 - オメガ 6 脂肪酸であるリノール酸の補給を検討します。
 - 亜鉛とリノール酸の併用について、犬の亜鉛反応性皮膚炎ではまだ研究が進んでいません。しかし、健康な犬を対象とした研究では、亜鉛とリノール酸が被毛の質を改善することが示されています。被毛の光沢が著しく改善し、被毛の鱗屑と経表皮水分蒸散量が大幅に減少しました。

追加のリソース

Colombini, S. (1999). Canine zinc-responsive dermatosis. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 29(6), 1373–1383.

Marsh, K. A., Ruedisueli, F. L., Coe, S. L., & Watson, T. G. D. (2000). Effects of zinc and linoleic acid supplementation on the skin and coat quality of dogs receiving a complete and balanced diet. *Veterinary Dermatology*, 11(4), 277–284.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。